

受け継がれる「門戸開放」の理念。社会に開かれてこそ、学問は生きる。

社会貢献・男女共同参画への取り組み

女性研究者を支援する「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」

<http://www.morihime.tohoku.ac.jp/index.html>

1913年(大正2年)日本の大学として初めて女性に門戸を開いた東北大学は、その伝統のもと、2001年に全学的組織「男女共同参画委員会」を発足し、男女格差の是正、研究・労働環境の改善、両立支援体制の充実などに努めてきた。

こうした取り組みの一環として行われている「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」は、2006年度より開始された文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に採択されたものである。

本事業は、とりわけ自然科学分野における女性科学者のキャリアパス形成にとって、障害となっている様々なハードルを乗り越えるための諸制度の整備を目指し、学内に「女性研究者育成支援推進室」を設置し、「育児・介護支援」「環境整備」「次世代育成」の3つのプログラムを展開している。



「母校出張セミナー」で次世代育成に貢献

「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」の「次世代育成」プログラムでは、東北大学自然科学部局に在籍する女子大学院生によって構成されるサイエンス・エンジェル(SA)制度を創設した。SAは、研究者を志す女子学生たちの身近なロールモデルとなるよう、母校への出張セミナーなどの活動を行い、次世代を担う女性科学者の育成に貢献している。



好評を得た「東北大学サイエンスカフェ・スペシャル」

<http://cafe.tohoku.ac.jp/>

1998年にイギリスで始まり、各国で急速に普及しつつあるサイエンスカフェを、日本では東北大学が初めて本格的に実施した。市民と研究者がサイエンスについて気軽に話し合う場として2005年8月にスタート。「せんだいメディアテーク」を会場に毎月1回のペースで開催しており、2008年7月までには36回を数える。2007年には東北大学100周年記念事業の一環として「サイエンスカフェ・スペシャル」を東北大学片平さくらホールで開催し、好評を博した。また、2008年度下半期からは地方での開催も予定している。



「プロジェクト型教育研究プログラム」で地域活性化に貢献

東北大学大学院経済学研究科は2005年7月、産学官連携を通じて東北地方のイノベーション能力を向上させることを目的に「地域イノベーション研究センター」を設立した。その推進事業の1つとして「プロジェクト型教育研究プログラム」が2006年より始まった。地域の重

要課題を解決するためのプロジェクトを編成し、教員・大学院生・実務家たちが共同で調査研究を行い、その成果を発表するというものだ。本事業によって地域課題の解決はもとより、地域プロデューサーおよび地域研究者の育成、産学官連携による教育研究の促進などを図る。



全国の高校生を対象に「阿部次郎記念賞」を創設

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/abe2008/index.html>

2007年の大学創立100周年を機に、東北大学文学部は「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」を創設した。阿部次郎(1883～1959年)は、東北大学を代表する思想家で、そのエッセー集『三太郎の日記』は1914年の刊行以来、青春の必読書として読み継がれてきた。東北大学では1999年に「阿部次郎記念館」を設置し、収蔵品を展示している。2008年で2回目となる本賞は、生涯を通じて「自己とは何か、日本文化の特質とは何か」を探求した阿部次郎の精神を記念し、全国の高校生からエッセーを公募している。

